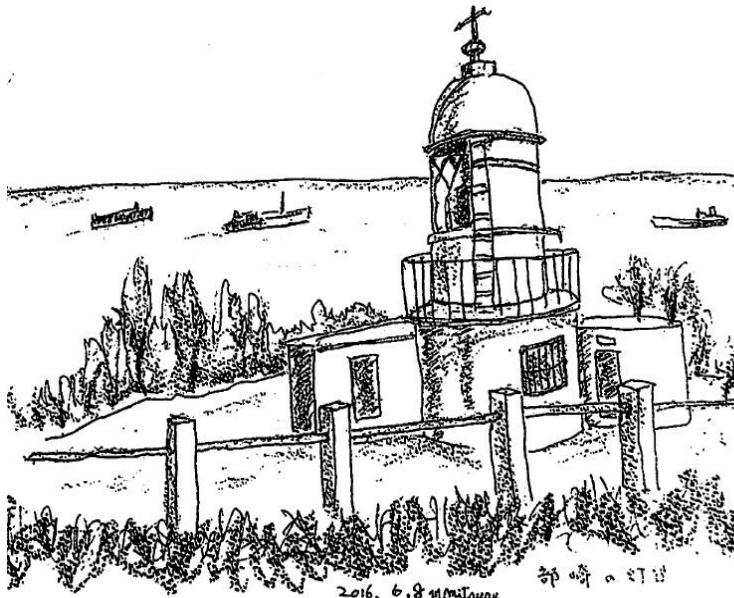


週報2020年11月22日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年11月22日

前 奏 力丸勝子 師

開会の祈り 司会者 石田紘一郎 兄

信仰告白 使徒信条・標語聖句唱和

賛 美 新聖歌 248「人生の海の嵐に」

* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ *

献身の祈り 出口勇治 兄

賛 美 新聖歌 398「新しき地に」

聖書朗読 創世記 33章 1～14 節

メッセージ 「恐れに打ち勝つ方法」 山崎銀次郎 牧師

祈 り

頌 栄 新聖歌 63「父 御子 御霊の」

祝福と派遣の祈り

後 奏

交わりの三省

* 互いに愛し合っていますか

* 互いに赦し合っていますか

* 互いに祈りあっていますか

説教要約

創世記 33 章 1～14 節

「恐れに打ち勝つ方法」

① 神は恵みを前に置かれる

ヤコブは兄エサウを恐れていました。彼が最も恐れていたことは復讐です。ヤコブは母リベカと結託して長子の権利（神の祝福）をエサウから奪い取りました。エサウはこの事で激高し、ヤコブは逃げるようにして叔父のラバンの所に行きます。しかし彼はずっと兄に対する恐怖心を払拭できずに過ごしていました。今日の話は 20 年の時を経て兄エサウと再開する場面です。

しかしこの創世記 33 章で今までとは違う、ヤコブの心境の変化が表されています。32 章の中で表されているヤコブの関心は“兄の機嫌を損ねないで、どのようにして好意を得るか”です。しかし 33 章では彼はエサウと 400 人の従者を前にして、自ら家族の先頭に立ってエサウに対峙したのです。彼は”祝福された自分”に対する依存から脱却し“自分の前に置かれる祝福”に依存しました。そこで彼は新しい恵を得たのです。

今日聖書が私達に教えている事は、恐怖に対してどのように立ち向かうかという事です。ヤコブの問題点は恐れを自分の力（知恵や策略）で支配しようとした所です。つまりそれは神に対する不敬謙を意味します。言い換えるとこれから成そうとする神の祝福に目を向けないという事です。私達がすべきことは神の支配、恩寵に身を委ねる事です。

② 恐れに打ち勝つ方法

ヤコブは兄の所まで行く間、7 回地に伏しておじぎをしました。これは当時王様に対して服従を表す行為だそうです。以前のヤコブなら出来なかった事です。彼は一見、ただの逃亡生活に見える人生の中で、神様の取り扱いを受けました。そこで学んだことは“人生を導く神に対する謙虚さ”です。実際、このヤコブの行為に対して解釈が分かれる所です。私は‘不器用なヤコブが見せた神と人に対する謙虚さ’だと考えます。

興味深い事にエサウの動向は、ヤコブと対峙するまで全然見えて来ません。何故 400 人の従者を引き連れて迎えに来たかもわかりません。そ

してヤコブと対面した時、彼に走り寄り、抱きしめました。そこでお互い、再会の涙を流しました。エサウは単純にヤコブとの再会を喜んだのです。この箇所ではヤコブとエサウの在るべき関係性が際立っています。つまり同じ血を分けた兄弟の絆がただそこにあったのです。それは二人の涙が物語っています。

「兄エサウにはわだかまりが無かったのか？」それはわかりません。聖書にはそこまで書かれていません。しかし一つ言えることは兄は過去の事を忘れたのです。日本の言葉で言う「水に流した」という事です。このように導いたのは神様です。恐れに打ち勝つ方法、それは人生に神が介入する事を信じ抜く事です。人と人の間に愛を流して和解へと導く神に、自らを明け渡す時、新しい関係性（愛と赦しと慈しみ）の扉が開かれます。

③ 祝福と共に歩く

ヤコブとエサウは和解した後、エサウは自分が先導し旅の出発を図ろうとします。（創 33：12）兄として自然な行為だと思います。しかしヤコブはこの申し出を断ります。一見不自然のようですが、ここに大切なポイントがあります。兄の歩調ではなく、自分の前に行く家畜や子どもたちの歩調にあわせる事を選びました。これはつまり神の祝福と歩調をあわせて生きる事を選び取った事を意味します。

どういうことかという、ヤコブは以前、この家畜や僕たちを、自分の立場を守る道具や戦略の一つとして扱っていました。しかしここでは「私の前に行く～」と表現しています。つまり、自分の所有物ではなく、神の恵みだと認識を新たにしたのです。彼は神の祝福と共に歩く人生を再出発させました。

人の歩調は様々です、立ち止まるタイミングも、再出発のタイミングも様々です。歩いて得るものもあるし、立ち止まったからこそ得る事ができたものもあります。しかしその中で大切な事が二つあります。「だれが人生の主導者か？」と「私達は何を得るために生きるのか？」です。今日の箇所がすでに答えを語っていますが、その答えは“私達は主により頼んで、神の恵みを得る”事です。私達は信仰の歩みを続ける時、ゆっくりで良いのです。他の人の歩調は関係ありません。ゆっくり神の手に引かれて、共に前進してまいりましょう。